

皇海山・袈裟丸山縦走報告

2010 年 4 月 24 日(土)25 日(日)

M4 只左一也

0 日目：浅草駅→(東武・わたらせ渓谷鉄道)→
→間藤駅(駅で仮眠)

1 日目：間藤駅→松木溪谷→国境平→皇海山→
→不動沢のコル手前(幕営：C1)

2 日目：C1→鋸山→六林班峠→袈裟丸山→
→小丸山→(塔の沢コース)→登山口→
→(林道歩き)→沢入駅1km手前→
→(通りがかりの車)→東武線赤城駅

1 日目 (4 月 24 日(土))

起床	04:00	
間藤駅		05:00 発
銅親水公園	06:00 着/発	
最後の堰堤	08:20 着/発	
もみじ尾根取り付き	10:30 着	11:00 発
国境平	12:50 着	13:30 発
皇海山	16:40 着	17:00 発
幕営地 2 つ目の岩峰	17:40 着(幕営)	
(歩行時間：約 11 時間)		

実習が休みの週なので、これはチャンスと今まで 2 回計画してはつぶれた(昨年 5 月と 11 月)日光白根山～皇海山～袈裟丸山の縦走に挑戦しようと、22 日の木曜日から 3 泊 4 日の日程で準備していた。しかし天候が不安定で、直前の予想では 22 日と 23 日は悪天候の模様。奥白根山で荒れると厳しいので、22 日は出発を見合わせ、天気図を見守っていると、23 日の金曜中は天気が悪そうだが、24・25 の土日は晴れそうである。せっかく準備もしたので、計画のコースの中で前夜発 1 泊 2 日で歩ける部分考えた。前半の奥白根山～皇海山は厳しいが、後半の皇海山～袈裟丸山は残雪のこの時期でもコンディション次第では何とか歩けそうだったし、無理なら途中でエスケープできる。元の計

画でエスケープルートとして考えていたわたらせ渓谷鉄道の間藤駅～松木溪谷～もみじ尾根のルートから県境尾根の国境平に出て、後は元の計画通り尾根を南下することにした。松木溪谷は何度も渡渉しないといけないので、冷たい川に入っても大丈夫のように、軽い運動靴と沢登り用のゴム靴下とゴムスパッツを用意した。

金曜の夕方、通勤通学で混雑する電車を乗り継ぎ、21 時過ぎ、わたらせ渓谷鉄道の最終便で終点の間藤駅に到着。降りたのは私一人だった。無人の駅舎の中にテントを張って休ませてもらった。

翌朝は 4 時起床、5 時に出発した。空はまだ曇っているが、ところどころ青空も覗いていて、天気は好くなりそうだ。

この一帯は有名な足尾銅山のあったところで、一時は栃木で宇都宮に次ぐ人口となるまで栄えたそうだが、今は銅の精錬のために木を伐採し尽くして荒れ果てた谷間に集落がさびしく広がっている。

渡良瀬川に沿って車道を 1 時間ほど歩くと銅(あかがね)親水公園(足尾ダム)。ここは桜が 7 分咲きだった。ここから松木川沿いの林道となる。徹底的に木を伐採して、山の斜面は荒れ果てているが、なんとか緑を取り戻そうと、一生懸命植林を進めているようである。

こんなに荒れ果てた場所だが、動物や鳥が多い。林道はカモシカの足跡が頻繁にみられ、サルやシカともよく出会った。

林道は次第に荒れた感じになり、1 時間半ほどで林道が終わって河原を歩く。ここで靴と靴下を履き替えた。川の水は冷たいが、沢用の靴下とスパッツのおかげで全然冷たく感じなかった。

大きな堰堤を超え、渡渉を繰り返して広い河原を遡る。やがて、正面の谷間に皇海山の頂が姿を見せた。この方向から見る皇海山は均整がとれていて大変立派である。特に大きな困難もなく、もみじ尾根の取り付きに到着。ここで登山靴に履き替え、急坂を登る。荷物が重くて苦しい。が、次第に傾斜が緩くなり、林も広葉樹の雑木林からダケカンバの見事な林となる。厳しい風雪にさらされないためか、まっすぐ伸びた樹皮のきれいなダケカンバの林で、是非テントを張って 1 泊したくなるように場所だった。ただ、鹿が非常に多く、足元を見ると鹿の糞だらけで、大げさではなく

荷物を下ろすのに困るほどだった。さらに傾斜が緩くなり、国境平に到着。ここでようやくところどころ雪の上を歩くようになる。群馬側に少し下った所に水場があるので、下りてみた。ひと口飲むと旨いので、何を血迷ったか、必要な水を汲んで持ってあがることにした。正直なところ、雪を溶かして水を作るのが面倒だったし、水を多少担いで重くなっても、大して影響ないと思ったのだが、これは間違いだった。いつどこでも雪を溶かせば水を得られるので水を担がなくて良い、ということが積雪期の登山の最大の利点であるのに、馬鹿な事をした。

国境平から見る皇海山は高く、進むにつれてどんどん傾斜がきつくなる。凍っているところもあるのでアイゼンを使うが、さらに傾斜がきつくなり、全然進まない。それに、雪の量も急に多くなり、荷物が重いせいで時々腰まで潜ってしまう。それでも水を捨てるのが惜しくて、意地もあって、なんとか急斜面をよじ登って、頂上直下のなだらかな稜線に出た。このあたりは雪が多く、吹きだまりでは2m以上残っていた。ときどき腰のあたりまで潜ってしまう。樹林が比較的疎らな明くて気持ちの良い尾根で、後ろの方を振り返ると、日光白根山や錫ヶ岳の眺めがよかった。頂上に近づくにつれてシラビソからダケカンバが多くなる。先ほど、皇海山の山頂付近が雲に覆われているときに付いたのか、ダケカンバの枝が霧氷をまとってきれいだった。また傾斜がきつくなり、重荷のせいでろのろとしか進めなかったが、夕方4時半過ぎ、皇海山山頂に到着。人の踏み跡は全くなかった。空はすっかり雲がとれて、青空が広がっていた。

樹林におおわれていて展望こそないものの、大変雰囲気の良い山頂で、ここでテントを張って一晩過ごしたい誘惑に駆られたが、そうすると翌日の行程が厳しくなるので、時間は遅かったし、バテバテだったが、もう少し先に進むことにした。

鋸岳の方へ少し進むと、青銅の剣が祭ってある場所あるのだが、そこだけ雪が結構溶けて、少し異様な雰囲気だった。さらに下ると傾斜が大変きつい下りとなるが、雪のおかげで脚にかかる負担が小さくなって却って歩きやすい。30分ほど下ったところで、正面の険しい鋸山を見て登り返す元気も失せ、皇海山と鋸山の間のコル（不動沢のコル）の少し手前でテントを張ることにした。樹林に囲まれた雰囲気の良い場所で、西

は赤城山の眺めの好き、なかなかのテントサイトだった。馬鹿みたいに水を担いだおかげで雪を溶かさずに済んだので、すぐに食事を済ませ、寝袋に潜り込んだ。



金曜の夜、間藤駅(無人駅)の駅舎で仮眠。



駅舎の立派なステンドグラス。



このあたりは、桜がようやく見頃。



銅(あかがね)親水公園。



かつては足尾銅山で栄えた一帯。



松木溪谷の入り口。



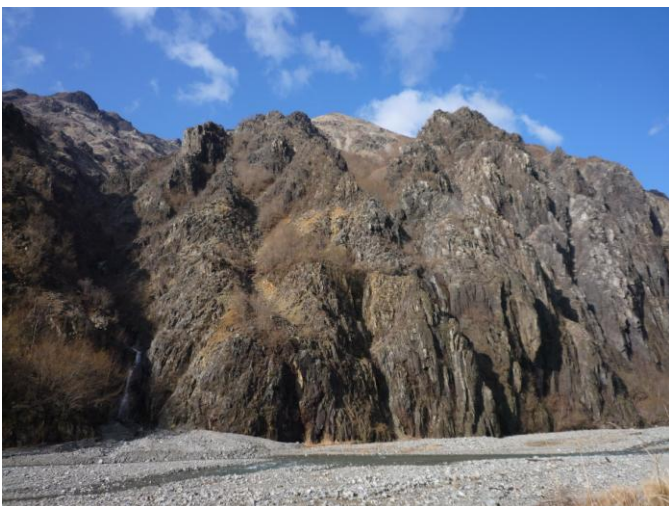
かつては緑の豊かだったこの一帯は、銅の精錬のために木を伐採し尽くしてしまい、山は丸裸になってしまった。植林してなんとか緑を取り戻そうと努力しているようだが…



松木溪谷



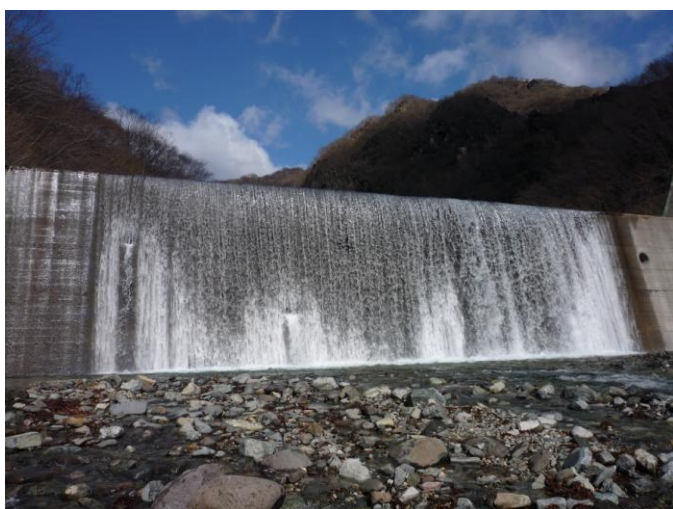
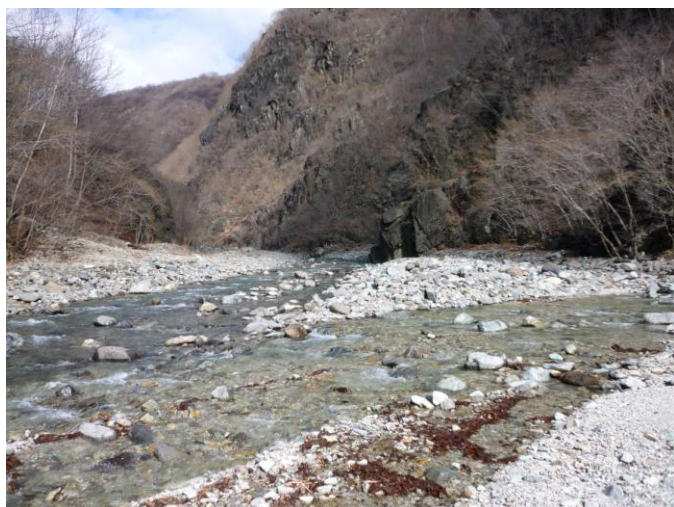
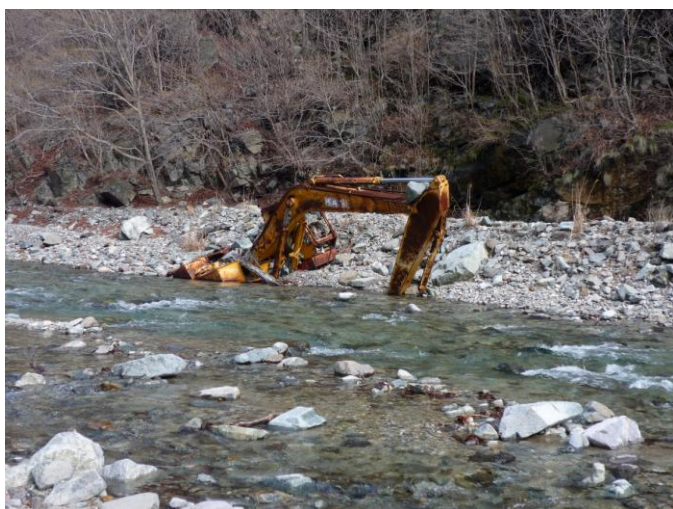
途中までは林道を進む。



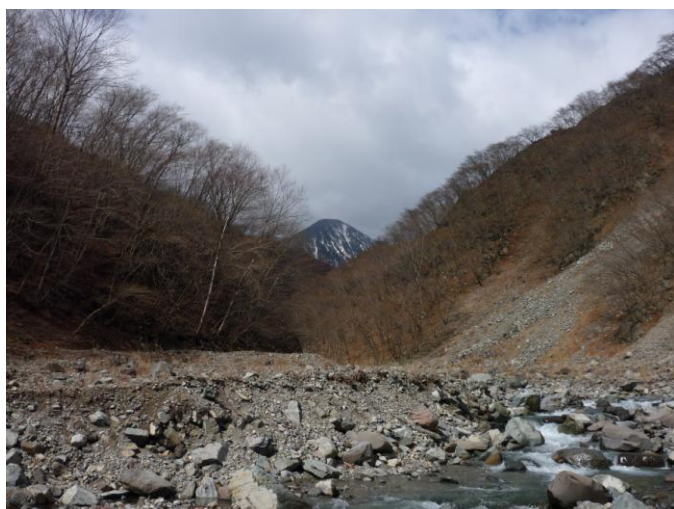
林道はこのあたりでおしまい。ここからは河原を歩く。



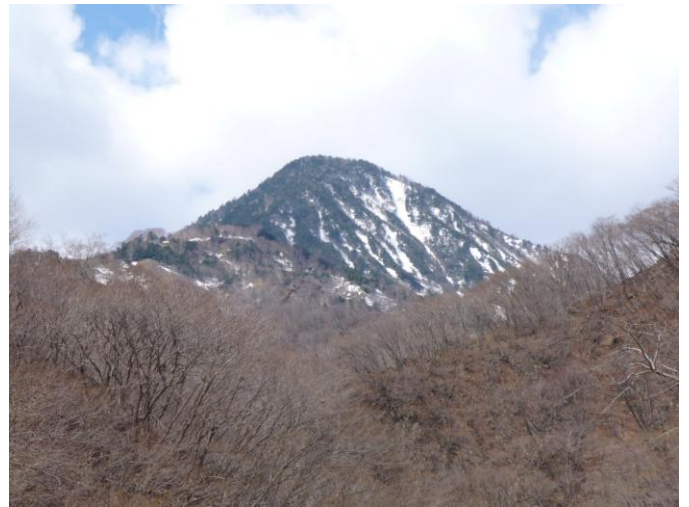
必要に応じて渡渉しながら川を遡る。



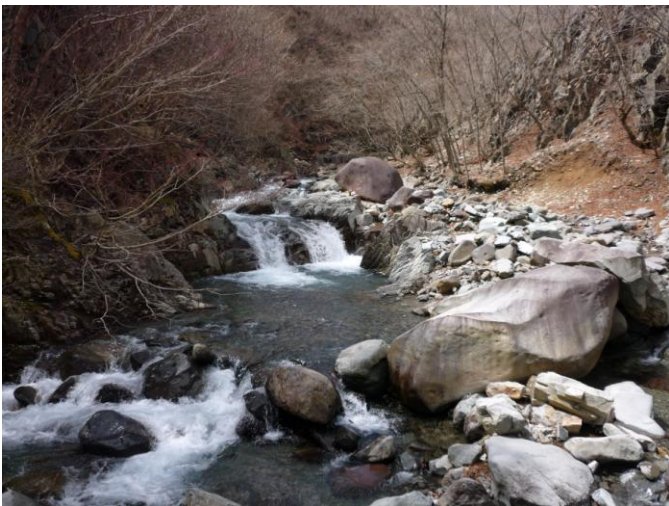
最後の大きな堰堤。



正面に皇海山が見えた。



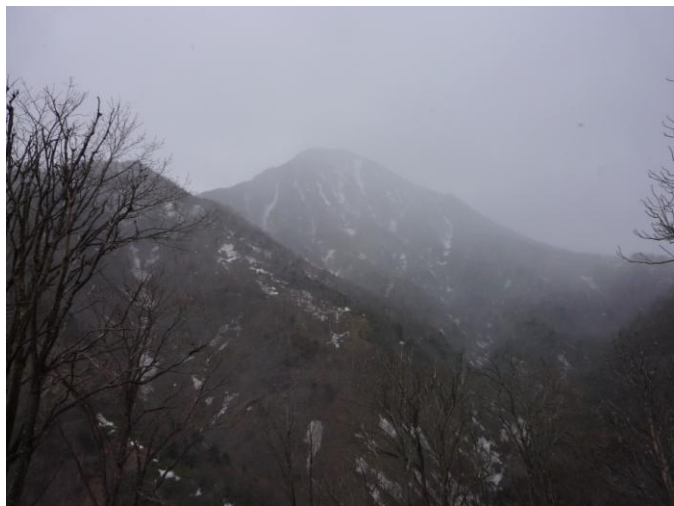
ここは右手を巻く。



このあたりから川を離れ、尾根に入る。



モミジ尾根の取り付き。標識がたくさんあるので迷うことはない。



皇海山がガスで覆われてしまった。

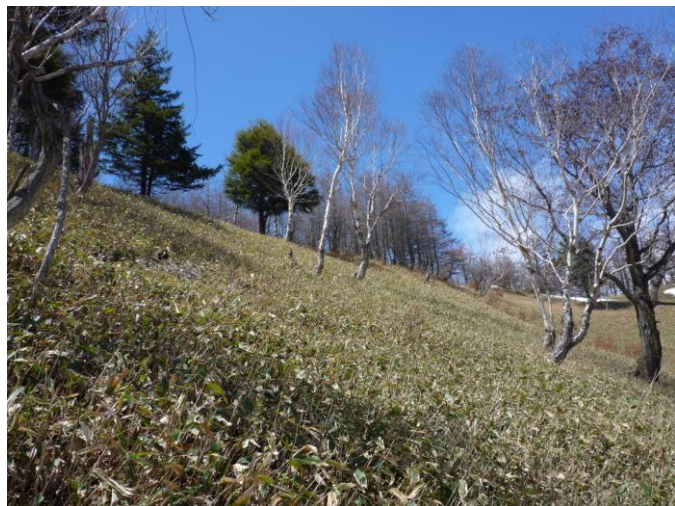


この辺りは、鹿の糞だらけ。大げさではなく、荷物を置く場所に困るほど。





大変美しいダケカンバの林。是非、1泊してみたい場所である。



群馬と栃木の県境の国境尾根までもう少し。

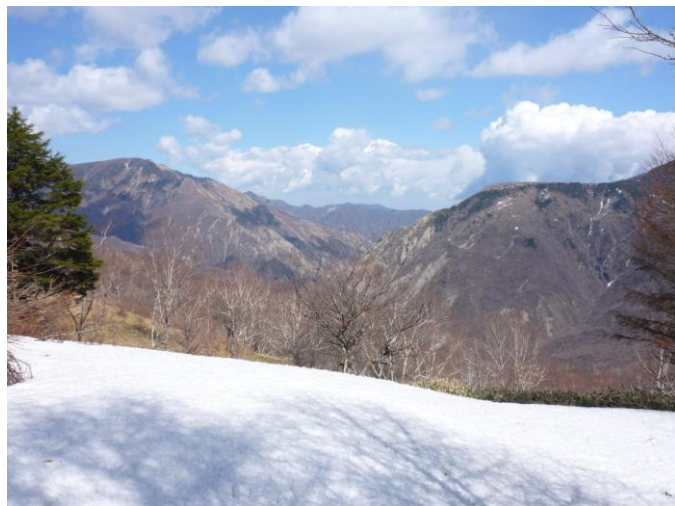


国境平。





西に 5 分ほど下った所に水場がある。



東の眺め。



旨かったんで、たくさん汲んで担ぎあげることにした。



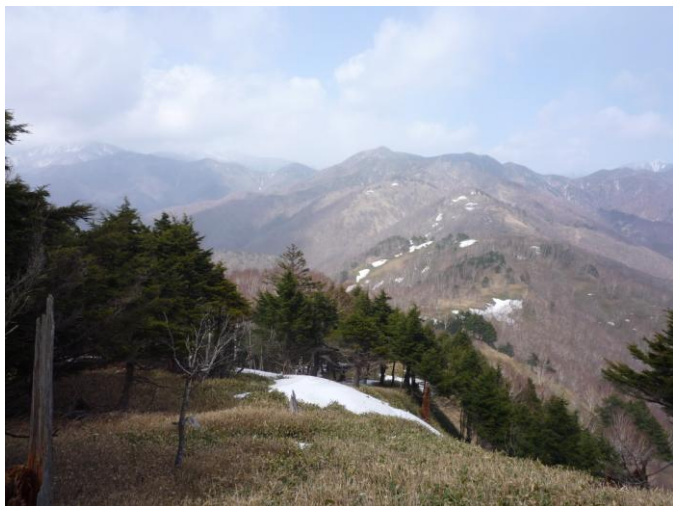
このように、金属のプレートが標識として付けてある。



国境平に戻り、皇海山に向けて出発。



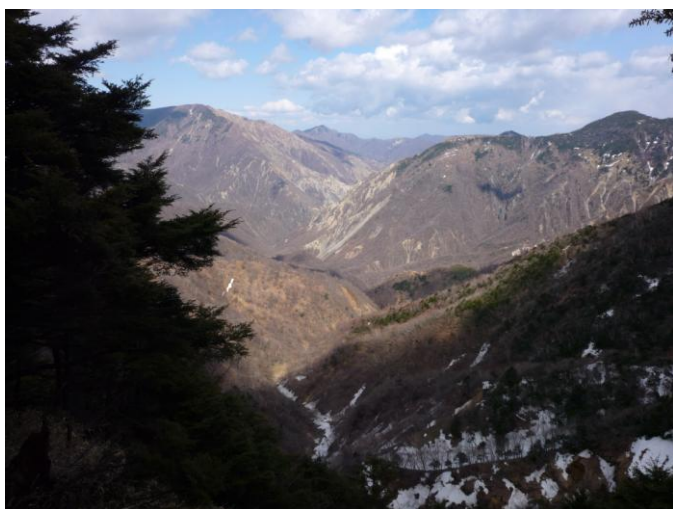
正面の皇海山まで標高差 500m の登り。



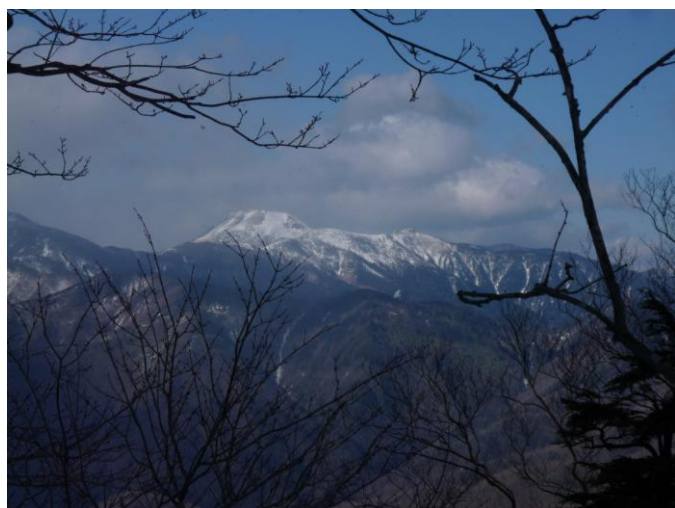
国境平の方を振り返る。



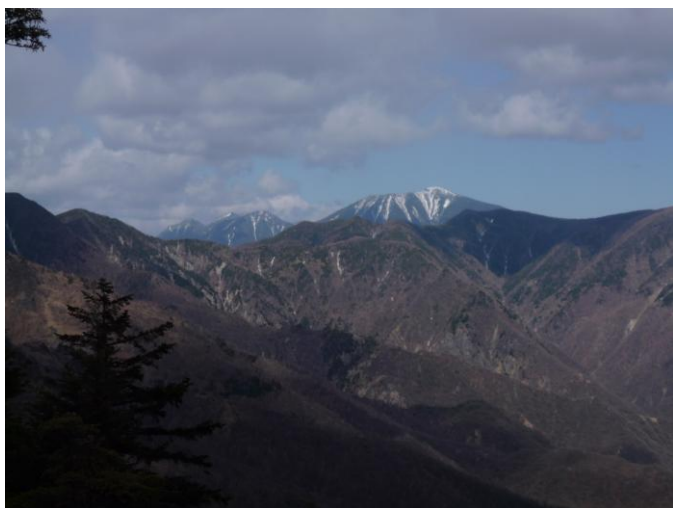
次第に傾斜がきつくなり、雪が深くなってきた。凍っていて滑るので、アイゼンを装着。



松木溪谷の方面の眺め。



日光白根山



男体山。



傾斜がかなりきつくなってきた。しかも腿の上まで潜ってしまい、なかなか前に進まない。



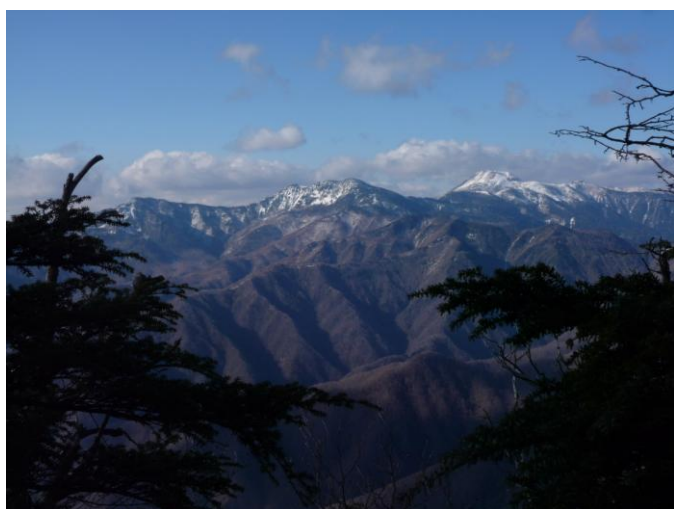
立ち止まるごとに後を振り返って景色を眺める。中央
右は男体山。



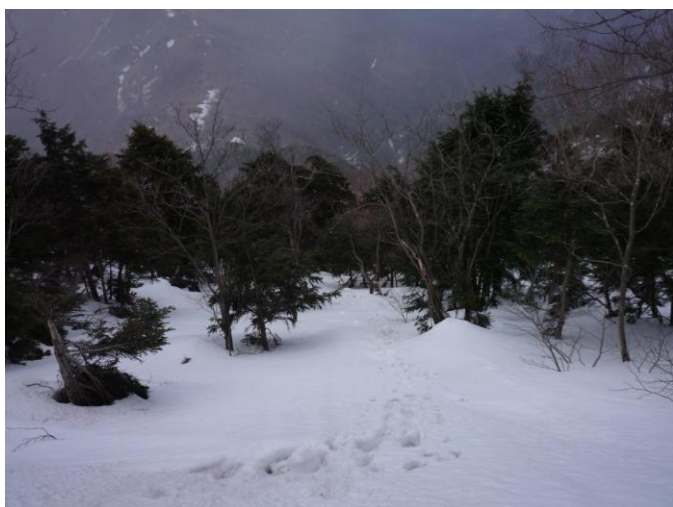
山頂から北に延びる尾根に上がった。



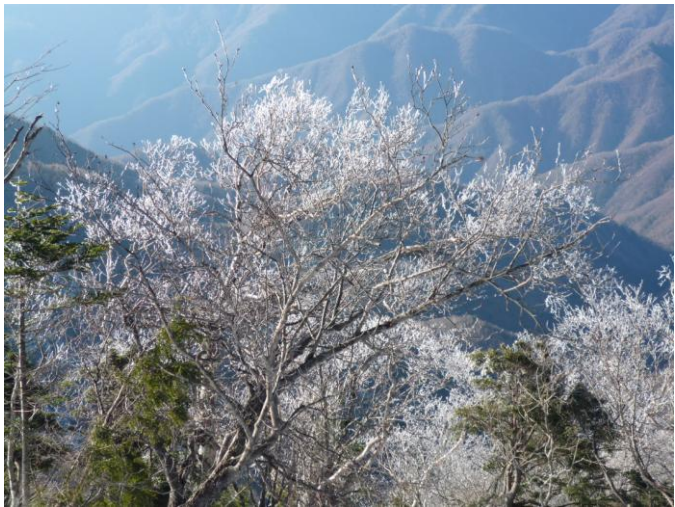
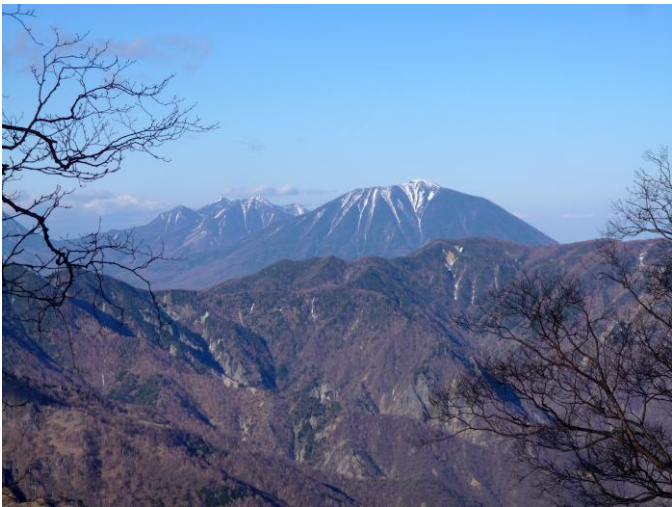
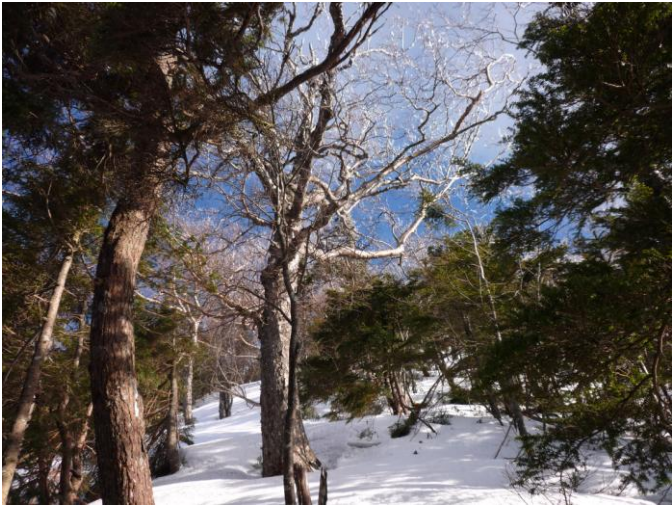
さらに傾斜がきつくなる。雪が2 m以上残っていて、
腰上まで潜ってしまう。

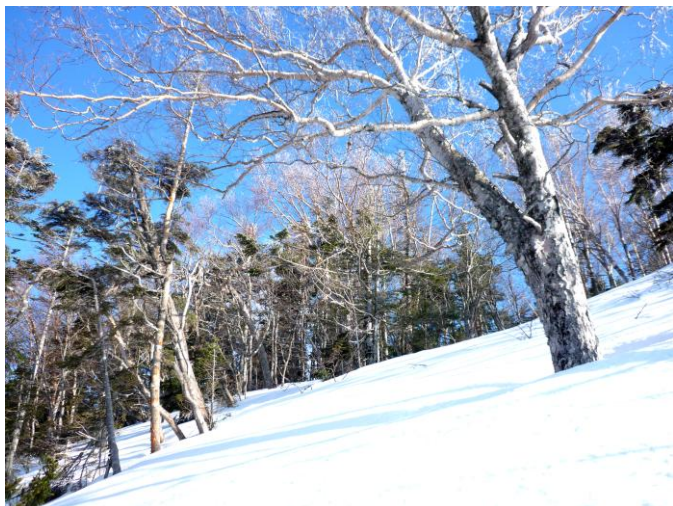


日光白根山(2578m 右)と錫ヶ岳(2388m 中央)

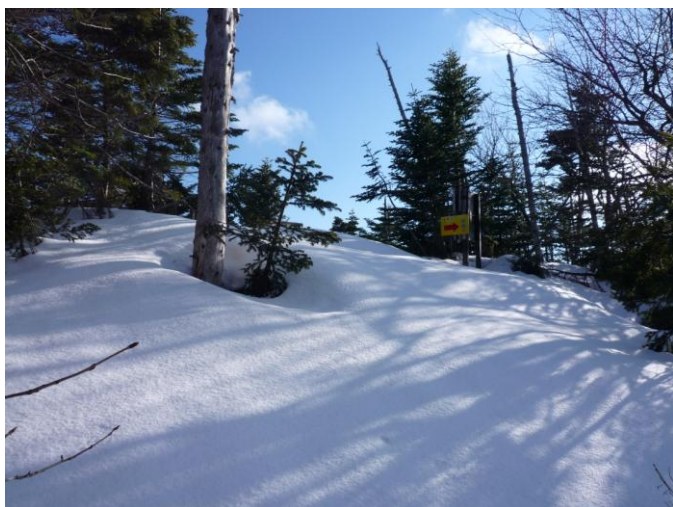


振り返るとこんな感じ。かなりの急斜面。





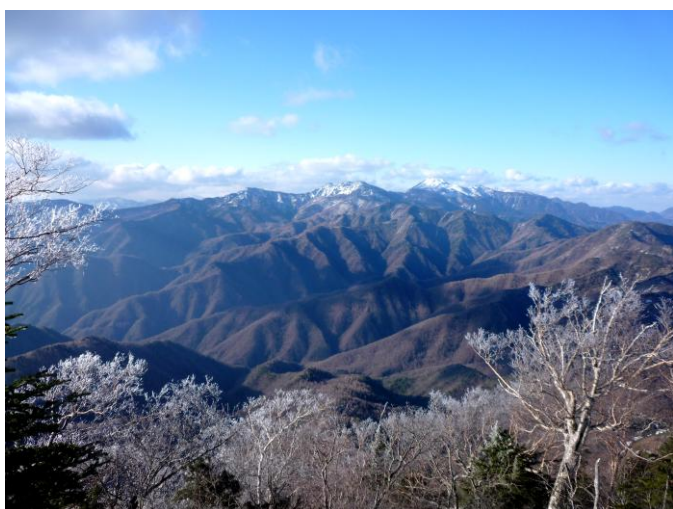
4時半過ぎ、ようやく皇海山山頂(2144m)に到着。



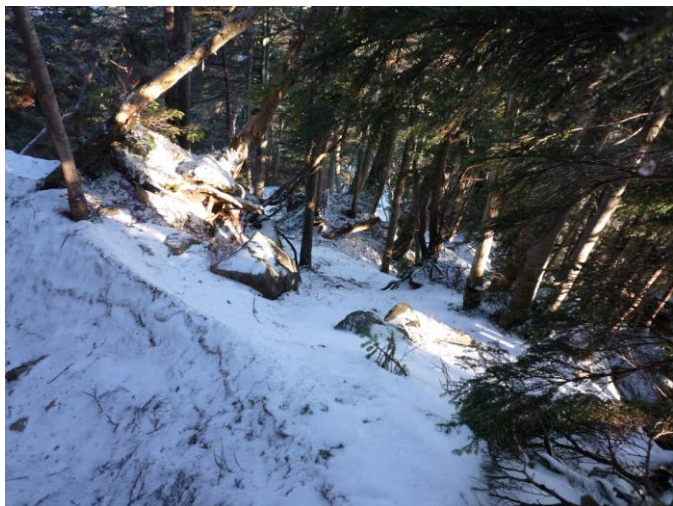
山頂直下



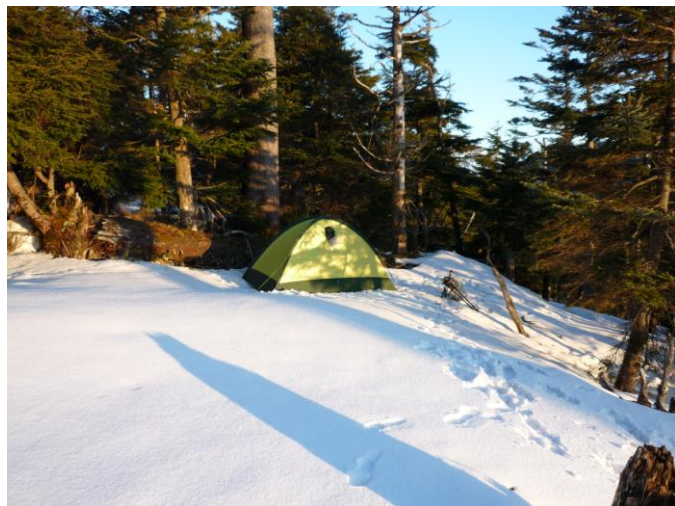
山頂から鋸山の方へ下る。



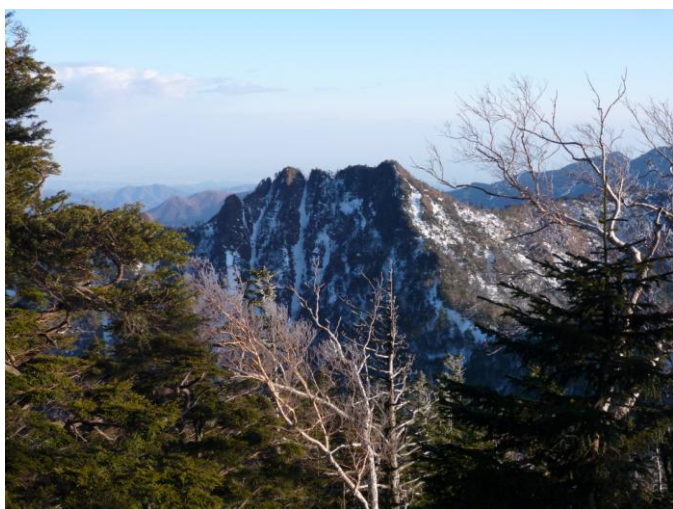
山頂近くに青銅の剣が祭ってある。



急斜面を下る。



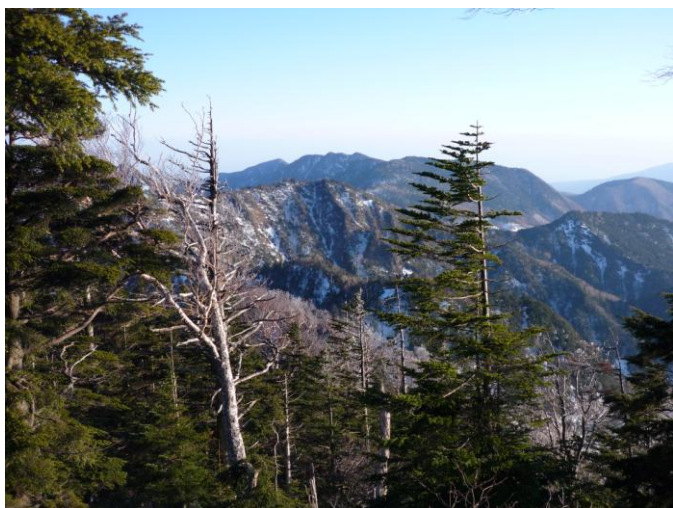
よさそうな場所を見つけてテントを張った。



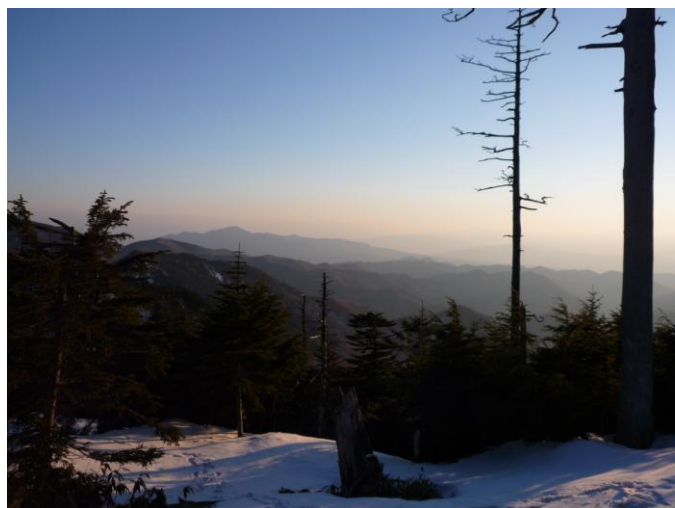
鋸山。登りがきつそう…。



幕営地周辺の樹林。



袈裟丸山方面の眺め。



テントサイトから西の眺め。遠くの山は赤城山。